

一般質問



仙北市総合計画について バイオマス事業について

藤原 万正

総合計画の策定について

質問 仙北市の総合計画は如何に住民のニーズを的確に捉え、それを施策に反映させて住民の満足度を高めていくかが重要と思う。市民参加によるまちづくりで全国の注目を集めている愛知県東海市を訪問し話を伺ってきた。

市長 同市では市民参加推進委員会を立ち上げ、施策の立案、決定から評価に至るまで市民が様々に参加するまちづくりを行っている。仙北市の総合計画遂行に当たっては是非とも参考とすべきと思うが如何か。

市長 東海市の例は、我々も参考にすべき最先端の考え方を持った事例ではないかと思う。我が仙北市でも総合計画策定に当たっては住民のご意見も様々な手法、手段を用いて吸収し、ベストのものを作った。

それを如何に住民総参加の中でこのまちづくり総合計画の推進、達成を目指していくかという面で、先進事例を調査し、取り入れるべき所は取り入れ、市総合計画をより良いものに進めていく。

質問 パブリックコメント制度の導入についての考えを伺いたい。

市長 仙北市には現在、パブリックコメント制度

という制度化されたものはないが、パブリックコメントイコール市民の声という事では、日頃から心掛けていくし、様々な計画策定に取り入れている。制度としてパブリックコメント制度を導入するという必要性、又、内容についても検討しながら進めいく。

高齢者福祉について

質問 高齢者保険福祉施策も反映させる高齢者全てが健康で生きがいを持つ、社会の一員として主体的に社会に参加、貢献することを目的とした施策実施に重点を置くことが重要と思うが如何か。

市長 その通りと思っている。市民との協同による地域作りは市役所職員の働きと共に市民からの自主的な参加、積極的な提言、様々な作業等にも協力を頂くなど、市民総ぐるみの地域作りがあるべき姿だと考えている。

質問 閉じこもり、うつ、認知症の介護予防、高齢者に対する課題をどのようにお考えなのか、伺う。

市長 市としては包括支援センターを拠点として、

保健師、社会福祉士、ケアマネージャーを配置して介護予防事業を積極的に推進している。又、民生委員や関係各機関からの情報により家庭訪問、相談、必要なサービス提供などをやっている。うつ対策では県の自殺予防モデル事業の指定を受け、その中で取り組んでいる。種々の実態に基づき個別のきめ細かな施策を行っていききたい。

バイオマス事業について

質問 最近地球温暖化対策の具体的な取り組みの一方策としてバイオマスエネルギーの利用が進んでいる。

市長 仙北市でもその調査事業を昨年度に実施したが、今後の取り組みについて伺う。

市長 仙北市では昨年度、調査事業と併せて具体的な事業、可能性のための調査も行った。

その後、新エネルギー機構の事業申請し



介護予防の拠点包括支援センター

たが採用されなかった。しかしそれをベースにしてにき園地域に三百キロワット規模の木質バイオ発電を今、具体的に検討しているところである。

また、水田の減反農地で何を作り、どういう社会貢献できるかという中で、稲ワラや米をバイオエタノールの原料として収穫できるような方向も注目しながら取り組んでいく。